忙中一筆

北欧・デンマークの「誇り高き年金生活者」に魅せられて

菊池一春

この夏、北欧デンマークから友人マウリッツ&キャスティンご夫妻が六年ぶりに来町した。

私とご夫妻との出会いは二〇〇〇年に遡り、東京日野市社会教育センター主催による「デンマーク高齢者福祉視察の旅」に参加した際、親日家のホームスティ先として紹介された。滞在先のホテルへ出迎えに来た二人はいきなり「自分達は誇り高きペンショニスト（年金生活者）です」と笑顔で握手と抱擁を求められたことが忘れられない。

現在、夫のマウリッツは七二歳、現役時代は考古学・学芸員であったが趣味のバイオリン演奏や抽象的な油絵制作、骨董品収集などを手がける芸術家である。妻のキャスティンは六七歳、元国民学校（小学校）の障がい児教育の教師である。

二〇〇三年、今度は妻と共に老後の生活を模索するために、マウリッツ&キャスティンご夫妻が待つデンマーク・ロスキレ市を再訪した。デンマークは人口、面積共に北海道と同規模、明治時代、北海道とゆかりが深い内村鑑三が「世界一富める国」と称賛した福祉先進国、国民の医療費がすべて無料だけではない。各自治体に設置された補助器具センターには数人の作業療法士が常駐し、一人ひとりの障害に合った補助器具（ベッドや車椅子、リフト、喫煙装具他ｅｔｃ）を制作し無償で貸与する。高齢者福祉センターには看護師や作業療法士が二四時間体制で地区の在宅高齢障害者を介護する。在宅介護を基本としながらも重度介護者と認定された場合は高齢者プライエム（特別養護老人ホーム）があり、日本のような施設待機者などは存在しない。明るい廊下、壁に貼られた絵画、さらに広場ではペタンクなどの軽スポーツが盛んである。音楽療法から思い出療法など、現存する能力を後退させない寝たきりをつくらない施設運営に驚かされる。自宅で生活することが困難になった高齢者には高齢者住宅があり共同の食堂や広場、プールまでが設置され施設の運営には高齢者委員会などの自治組織が生き生きと活動している。一概にわが国の高齢者福祉と比較は出来ないものの、デンマーク高齢者福祉政策・「世界一幸福な高齢者」の生活は実に羨ましい。マウリッツ&キャスティン夫妻と歩いたバイキングの歴史が誇るロスキレ湾、数多くの古城、そして何よりも高齢者がバイオリンやアコーディオンを持ち込み演奏する森の中での音楽会、一緒に踊ったフォークダンスを忘れることはできない。

私は二〇〇七年四月の統一地方選挙で訓子府町長に当選した。翌年の五月、新築は叶わなかったが一〇〇〇坪の土地と

築二〇年二階建ての住宅を二五〇万円で購入した。

妻は「町長の専属妻は意に添わない」と地域の住民、高齢者が集うことができる「かくれ沢のとまり木」と「たまねぎぼうや子育て文化研究所」（「共同保育所たまねぎぼうや」を一三年間開設の後に続行）を兼ねた集会所二〇坪を新築した。朝夕エゾリスが散歩する姿を窓越しに見、木々に囲まれた自然や小鳥のさえずりに疲れた体が癒される。

妻は田舎町特有の町長がゆえの規制があり理想通りにはゆかないようだが、百人一首、観劇、学習会、ダンス、体操、大正琴、子育て相談やリズム室内外遊びなど、子どもから高齢者までが集っての一年目を過ごしている。

二〇〇九年六月二七日、マウリッツ&キャスティンご夫妻を歓迎して我が家の庭でミニコンサートと餅つきとバーベーキューを実施した。デンマークの森の中での音楽会のようなわけにはゆかないが私達の夢を実現させた。訓子府太鼓の勇壮な響き、大正琴とギターアンサンブルの優雅な音色、トロンボーンやエジプトの太鼓の演奏（隣町の英語指導助手はエジプト国籍で親子で研究所に通っている）など、子ども向けのエプロンシアターもあった。マウリッツがデンマークから持参したバイオリンでの「オーバイオリン」や「デンマーク国歌」の音色は五〇名からの人たちを魅了した。一緒に歌った「荒城の月」「さくらさくら」「ふるさと」「知床旅情」などもよかった。春に摘んであったヨモギでの餅つきは、その場で二臼をあんこ餅にしてたいらげた。訓子府自慢の無農薬野菜と魚中心のバーベーキューも好評だった。特にミニコンサートは「来年もやりたい」との声があがった。

マウリッツ&キャスティンご夫妻から「皆さん、心のこもった歓迎をありがとう。是非デンマークへ遊びに来てください」と丁重なお礼が述べられた。

訓子府町は素敵な町民と美しい自然、環境に優しい農業の町、中心市街地は内閣官房長官表彰を受賞した高齢者や障がい者に優しい街並みなどどれをとってもデンマークに遜色はない素晴らしい町である。しかしわが国の様々な福祉制度の現実、介護保険制度の実態や後期高齢者医療制度を見つめてみると彼らに胸をはって語ることができない。わが町の特別養護老人ホーム「静寿園」、ケアハウスなど施設職員や関係者の努力でわが国の標準的な運営がなされているもののマウリッツ&キャスティンにこれらの施設をいまだに案内することができない。彼らからデンマークへ招待されても、わが町の年金生活者ではデンマークを訪れることは難しいだろう。「私達は誇り高き年金生活者」と言い切れるような国民になれるのだろうか。

先ずは地方自治の確立とより豊かな福祉社会の実現に向けて、夢と希望がもてる訓子府町を町民とともに実現しなければならない。町長としての責任を痛切に感じながら、北欧からの使者・マウリッツ&キャスティンご夫妻と過ごした短い夏の日を忘れることができない。

<きくち　かずはる・訓子府町長>